

2025 FLECフォーラム クロージングシンポジウム
「インクルーシブ保育の未来像～児童発達支援センターの今後の在り方～」

こども園で行われている保育実践について

社会福祉法人 興望館

内田治代（特別支援教育コーディネーター）

興望館の歴史 ～すみだに根付いた 海外の人たちのボランティア活動～

設立：1919年（大正8年）5月1日

カナダ、北アメリカのキリスト教会から派遣された女性宣教師たちのボランティア活動として始まる



子どもの4人に1人は5歳までに亡くなってしまう下町地域の状況
→地域の方々と共に福祉課題に取り組まれた「セツルメント」

興望館のある地域



墨田区は、隅田川、荒川とその支流に囲まれています



墨田区
人口約28万5千人(2024年4月)
内18歳以下12.1%
65歳以上20.1%
168,520世帯



周辺には、関東大震災を機に設立されたセツルメントが現在も、病院や保育園、母子生活支援施設、児童厚生施設として残っています

興望館のある地域

工業と住宅が混在し、
大勢の人々の暮らす地域から



曳舟再開発や東京スカイツリーの建設で大きく変化



都心に通勤する家族のベッドタウンに

興望館の事業内容

児童養護施設 沓掛学荘



幼保連携型認定こども園 興望館こども園



興望館地域活動部

- 児童厚生施設-学童クラブ
- (中高生世代)ティーンズクラブ
- キャンププログラム
- ボランティア／海外研修生の受け入れ
- ピアノ教室
- 年輩者プログラム



興望館こども園・学童クラブの特徴

○キリスト教の理念に基づいた

- ・一人ひとりを大切にする保育

〔 インクルーシブな保育
チームで取り組む保育 〕

- ・切れ目のない つながりのある保育をめざして

〔 こどもの育ち
こどもを中心とした環境 〕

興望館こども園・学童クラブの特徴

○長い歴史に支えられて

- ・人が育ち 人が集い 人の輪が紡がれる
- ・ボランティアスピリットの広がり
- ・地域とのつながり
- ・興望館コミュニティ



興望館こども園・学童クラブの特徴

○こども園併設型の学童クラブ

- ・継続される保護者との信頼関係
- ・子どもの成長を長く見られる
人の育ちの循環がある
- ・兄弟、家族 まるごとアプローチ
- ・人の和、育ちあい、ピア
- ・卒業して離れても戻って来られる場所

インクルーシブ保育の経緯

- ・2000年以降、「気になる子」と呼ばれる子
 - …気になりの要因がわからなかつた
(どう療育につなげるか、 どう保護者と共有するか)
子どもの姿を捉えきれていなかつた
- ・保育者の大変さ
 - …クラス崩壊、 小1プロブレム
長時間保育、 保育はサービス、 保護者対応
学びはあっても 苦しさがなくならない
(研修を受けても 巡回心理相談でアドバイスされても…)



インクルーシブ保育の経緯

- ・転換点は 園の中から

- …特別支援教育コーディネーターの設置
興望館100周年プロジェクトでの話し合い
保育の見直し（「生活・時間の流れ」「環境構成」）



環境調整

保育の価値基準の変化

- ・保育が変わってきた

- …子どもの姿の捉え方の変化（保護者の姿の捉え方も）
適切な環境は 子どもも 保育者も すごしやすい
発達の道すじを 常に学ぶ
切れ目のない つながりのある保育

【子どもの育ち】【子どもを中心とした環境】

【子どもの育ち】 なにが気になっているのか ~どんな可能性があるだろうか?~

0歳



3歳



6歳

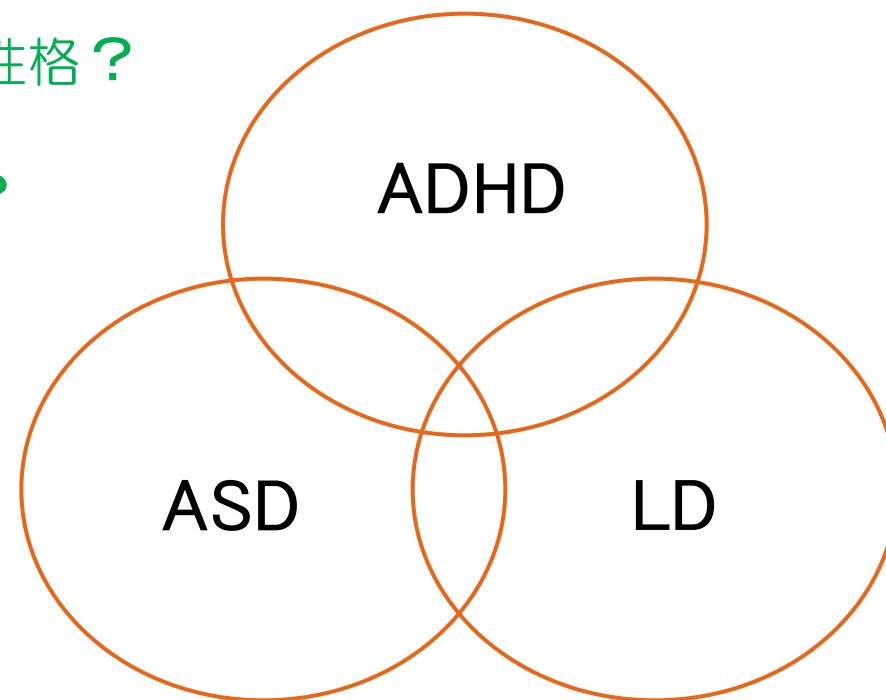


幼さ? 性格?

環境?



パパママは
どんな感じ?



どんな子なのかな
良いところ・
得意なところは
どこだろう

HSC (Highly Sensitive Child)

【こどもを中心とした環境】

保育環境

生活の流れ

遊び

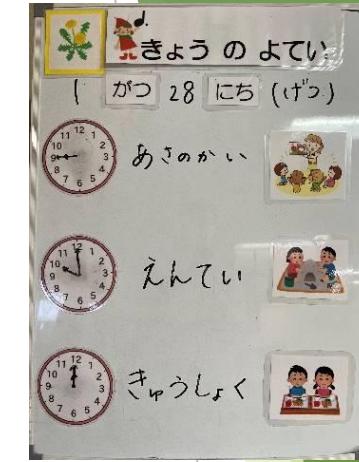
環境調整

個別支援

相談支援

発達支援

学童クラブ併設型 の こども園



保育における
ユニバーサルデザイン

他機関連携

家族まるごと(保護者、兄弟)

インクルーシブな保育へ

- ・特性が見えやすくなってきた

…なにが気になっているのか
誰の“困り”なのか

療育につなげる必要があるかどうか

園と家庭 それぞれの子どもの姿を 保護者と共有しやすくなった
他機関との連携の取りやすさ（外国籍の親子、要支援家族）



→理解が深まると、難しく感じることも少なくなる

継続課題：人手不足、質の維持、
地域の保育園事情、連携先の選び、など

インクルーシブな保育へ

- ・“子どもの声”を聴く

- …乳児期からの積み重ね
自分の気持ち・考えを知っていく
ヘルプサイン
気持ちに折り合いをつける

“通訳者”をめざして
特定専門性と生活総合性をつなぐ

- ・一人ひとりにとっての メインステージで “育ち合う”

- …発達の道すじを みんなで見ていく
(チーム保育、 共育て、 他機関連携)
 - …仲間とのすごしの中にこそある 学び 喜び・難しさ
(クラスづくり、 療育の学びをどう活かすか)

こどもたちから学ぶ インクルーシブ

受け入れられる・受け入れる

“ふつう”って何だろう、みんな“特別”

カテゴリーで分けない

みんなテーマを持っている

相談する、間違えても大丈夫、どうしたらより良くなるか一緒に考えよう

“みんなの居場所”になっていく

相手を知ろうとする、違いを知る、違いから学ぶ、違いを楽しむ

こどもは周囲を変える力を持っている